

令和3年8月24日（火曜日）

教育、民生常任委員会会議録

教育、民生常任委員会会議録

令和３年８月２４日（火曜日）

出席委員（８名）

委員長 福田 淑子 君

副委員長 柳 田 政 喜 君

委員 村 松 秀 雄 君

平 吹 俊 雄 君

藤 田 洋 一 君

吉 田 二 郎 君

手 島 牧 世 君

我 妻 薫 君

欠席委員（なし）

議長 大 橋 昭太郎 君

町執行部出席者

教育総務課教育次長兼教育総務課長

教育総務課課長補佐兼南郷学校給食センター長兼学校給食係長

教 育 総 務 課 技 師

不 動 堂 小 学 校 栄 養 教 諭

北 浦 小 学 校 栄 養 教 諭

南 郷 小 学 校 栄 養 教 諭

佐 藤 功太郎 君

三 浦 徳 夫 君

金 須 優 佳 君

瀬ノ上 瑠 美 君

垣 崎 友 紀 君

齋 藤 由美子 君

議会事務局職員出席者

次長兼議事調査係長

齊 藤 美 穂 君

令和３年８月２４日（火曜日） 午後１時３０分 開会

- １．開会
- ２．委員長挨拶
- ３．会議事項

- 1) 学校給食栄養価充足率の調査報告について
 4. その他
 5. 閉会
-

本日の会議に付した事件

- 第 1 学校給食栄養価充足率の調査報告について

午前 9 時 3 2 分 開会

○委員長（福田淑子君） 皆さん、お疲れさまでございます。

合同会議に引き続き出席されている方もおりますけれども、大変窮屈な日程で始めたいと思います。

手島委員は、今日家族の都合で遅れて出席するという通告がありました。そのほか全員出席ですので、委員会は成立いたしております。

ただいまから教育、民生常任委員会の会議を行います。

今日は、学校給食の栄養価の充足率についてということで、会議を持ちます。教育委員会のほうからは、2時に御案内をさせていただいております。教育長からお電話ありまして、「教育長は別の会議に出るので、出席できませんので、よろしくお願いします」ということでした。

学校給食の栄養価の充足率についての調査は、平成31年1月18日に同じように栄養士さんをお呼びして、充足率の一覧表に基づいていろいろ説明いただきました。その中での現況の把握と今後の対策についてお話をしたんですけども、現況についてはやはり全般的に不足している。その中で、食塩は逆に多いという結果になっております。アレルギーの人数についても、一番多いのは不動堂小学校で17名ということでした。栄養充足率に達していないのがかなりあるということで、カルシウムについて改善策は大変難しいという、栄養士さんのお話がありました。

それで、基準に近づけるためにはどうすればいいのかということで、今後の対策について不足するのは早急に改善すべきということでした。それで、栄養価の現状を各学校で情報交換しながら研修会・工夫をしていく。それから、栄養士会の話合いで充足率についても協議していく。それから米・パンの食材が値上がりしており、慎重に検討し食材の工夫をしていくということでお話合いが終わっております。

今年、令和3年度の予算で、学校給食の食材費を栄養価充足率に近づけるために値上げをするということが決まりました。皆さんのお手元には、平成29年度の栄養価充足率一覧表、それから令和2年度の栄養価充足率一覧表ということでお渡ししております。2時の時間まで、お目通しをお願いいたします。それから、どういうことをお聞きしたらいいのか、簡潔にその辺も考えておいてください。

休憩します。

午後 1 時 3 4 分 休憩

午後 1 時 3 4 分 再開

○委員長（福田淑子君） すみません、再開します。

令和 2 年度、令和 3 年度の栄養価充足率一覧表も届いております。それから、議長が出席されております。

午後 1 時 3 4 分 休憩

午後 1 時 5 9 分 再開

○委員長（福田淑子君） 皆さん大変お疲れさまです。ありがとうございます。

教育委員会および栄養士の皆さんには、お忙しい中本当にありがとうございました。学校が始まってお忙しいと思うんですけれども、できるだけ簡潔にこちらで質問いろいろさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

手島委員は、家族の都合で遅れるという通告がありました。なお、議長も出席しております。

これから、教育、民生常任委員会の会議を行います。

では、皆さんに令和 2 年度、それから令和 3 年度の栄養価充足率の一覧表を、教育委員会のほうからいただきました。まず、これについて説明していただく前に、職員の皆さんの御紹介をお願いいたします。

○教育次長兼教育総務課長（佐藤功太郎君） よろしいですか。

委員の皆様、大変お疲れさまでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず私のほうから、本日出席しているメンバーを紹介させていただきたいと思えます。

まず、私の隣からでございます。教育総務課の課長補佐兼郷土資料館長兼南郷学校給食センター長兼学校給食係長の三浦でございます。

○課長補佐兼南郷学校給食センター長兼学校給食係長（三浦徳夫君） よろしくをお願いいたします。

○教育次長兼教育総務課長（佐藤功太郎君） 続きまして、今年度から教育総務課のほうに栄養士として配属されました金須優佳技師でございます。

○教育総務課技師（金須優佳君） 金須です。よろしくお願いいたします。

○教育次長兼教育総務課長（佐藤功太郎君） 栄養士との連携とか、そういう部分である程度しっかりとやっていくということで今年度から配置ということになっておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、不動堂小学校の瀬ノ上瑠美栄養教諭でございます。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 瀬ノ上瑠美と申します。よろしくお願いいたします。

○教育次長兼教育総務課長（佐藤功太郎君） 続きまして、北浦小学校の垣崎友紀栄養教諭でございます。

○北浦小学校栄養教諭（垣崎友紀君） 垣崎友紀でございます。よろしくお願いいたします。

○教育次長兼教育総務課長（佐藤功太郎君） あと、一応南郷小学校ということでございますが、中学校・幼稚園、給食センターで作っておりますので、その齋藤由美子栄養教諭でございます。

○南郷小学校栄養教諭（齋藤由美子君） 齋藤由美子です。よろしくお願いいたします。

○教育次長兼教育総務課長（佐藤功太郎君） 今日以上メンバーで参加させていただいております。

それと、大変恐縮なのですが、私今日3時から南郷庁舎のほうで学力向上推進委員会というものを主催しておりまして、ちょっと今日は教育長も不在でございますので、私そちらのほうにちょっと向かわなければなりませんので、あとは三浦補佐のほうで途中から責任を持って対応させていただきたいというふうに思いますので、時間を見て私のほうは中座させていただきますので、御理解をお願いしたいというところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（福田淑子君） ありがとうございます。

それでは、議員の自己紹介をお願いいたします。マイク使ってね、マイク。

○委員（村松秀雄君） 村松でございます。よろしくお願いいたします。

○委員（平吹俊雄君） 不動堂の平吹です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（藤田洋一君） 南郷の藤田です。よろしくお願いいたします。

○委員（吉田二郎君） 御苦労さんでございます。吉田二郎でございます。よろしくお願いいたします。

○委員（我妻 薫君） 我妻 薫です。よろしくお願いいたします。

○議長（大橋昭太郎君） 大橋です。よろしくお願いいたします。

○副委員長（柳田政喜君） すみません、副委員長させてもらっています、柳田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（福田淑子君） 最後になりました。委員長をさせていただいております福田淑子でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、一覧表について御説明をまずいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

します。

○教育総務課技師（金須優佳君） 栄養価充足率の状況について説明させていただきます。お配りした資料を御覧ください。資料は2つありまして、1つ目は令和2年度栄養価充足率一覧です。こちらにつきましては、令和2年6月から3月までの10か月をまとめたものになります。2つ目は、令和3年度栄養価充足率一覧です。こちらにつきましては、令和3年4月から8月までの5か月をまとめたものになります。厚生労働省が作成する「日本人の食事摂取基準」を参考に、文部科学省が児童・生徒の健康の増進および食育の推進を図るために望ましい栄養量を算出した「学校給食摂取基準」を基準とし、栄養価充足率を出しております。

この令和2年度と令和3年度の栄養価充足率の平均を比較しますと、小・中学校とも10項目で上昇が見られます。特に小学校では鉄10.2%、ビタミンB₁8.1%、中学校ではタンパク質4.8%、ビタミンC8.2%の上昇が見られます。全体平均を見ると11項目で上昇が見られ、栄養価は改善傾向であると捉えております。令和3年4月から給食費の改定をさせていただきまして、使用できる食材や地場産物の利用の増加が栄養価充足率の上昇につながっていると考えております。

現在、横ばい傾向である中学校の鉄・食物繊維につきましては、令和3年4月から学校給食摂取基準が改正になり、基準値が上がっております。そのため、栄養価充足率にすると変わらないように見えますが、摂取できる量は増えております。学校給食に従事する職員との連携を密にし、献立内容の充実を図り、栄養価の充足につなげていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（福田淑子君） ほかに補足する点ありますでしょうか、栄養士の皆さん。ないですか。

じゃあ、委員のほうからいろいろお聞きしたいことがあれば、お願いいたします。平吹委員。

○委員（平吹俊雄君） まず、2点ですね。

全体の平均を見ますと、資料をもらっているのは令和2年と平成29年度なんです。（「いや、令和2年と令和3年」の声あり）平成29年ももらったよ。

○委員長（福田淑子君） 平成29年は、前に。

○委員（平吹俊雄君） そういう資料持っているんですが、私は持っているんですが、平成29年で合っているのか、これ。（「前にももらったの、コピーで出してもらっている」の声あり）みんなもらったんでしょう。（「教育委員会で昔もらったやつをコピーして、追加で出した」の声あり）いや、だから「あるよ」と言っているのさ。そういうことで、いずれにしても令和3年度については改善されているということで、大変御苦労しているのかなと、こう思っているところでございます。

そこで、まず令和2年と比べて脂質というか油類が減っているというようなことで、減っているにしても101.7ということですから、まずまずなのかなと思っております。そういう中でやはり食物繊維ですかね、これが改善にはなっているんですが低い状況であるし、それから食塩・ナトリウム関係ですか、これは逆にぐんと上がっているというような状況ですので、その辺どのように見ているのか教えていただきたいと思います。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 食物繊維につきましては、令和2年度から比較しても令和3年度は小学校で103%と、基準値を満たすようになっております。中学校でも1.1%の微増ではありますが、こちらは先ほど金須のほうから説明があったとおり栄養価がふえているということで、摂取量としては令和2年度よりも多く取れてはいる。取らなければいけない量が増えてしまったため微増というような数字になってきています。

ナトリウムにつきましては、平成29年から令和2年度にかけて基準値がこちらも下がってきています。少し上昇傾向にあるんですが、栄養価のほうは一般的に摂取量を調査して、一般的に取りすぎているものは給食では取らないような設定になっていまして、一般的に数字が取れないようなものは、3割取るのではなく40%とか50%取らなければいけないという大変厳しい数字になっておりますので。食物繊維については一般家庭では取りにくいので、基準値が「もうちょっと給食で取ってくれないか」ということで増えている。逆に食塩については、一般家庭では取り過ぎているので減らしているというような国の状況でございますので、給食としては努力しているところでございます。

○委員長（福田淑子君） 平吹委員。

○委員（平吹俊雄君） 令和3年度の資料ですけれども、これは100%を切っているということ、全体平均ですけれども。これは、どうなのでしょう。100に一応近くはなっているんですがこの辺の検討は、100にするような検討などはやっているんですか。いわゆる95%なり、あるいはその辺ですね。その辺あるんですけれども、100にしなければならぬという何ものもないんですね、これは。栄養のバランスの中で、全体の給食の中でこういうデータが出てきたということなのでしょうけれども、別にその辺100にしなくてもよろしいんですか。

○課長補佐兼南郷学校給食センター長兼学校給食係長（三浦徳夫君） では、ただいまの質問にお答えさせていただきます。

まず、こちらの令和3年度の4月から8月分までの各校のデータにつきましては、今後、栄養士会が定期的にかかれておりますので、そこで各校の栄養士に今の現状等を説明させていただいて、この数値を示しながら改善に向けて協議を重ねて、なるべく100%に近づけるようにや

っていきたいと考えております。こちらの学校給食摂取基準につきましては、先ほど説明を金須のほうからしましたけれども、全国的な平均値であることから弾力的な運用も認められているところではございますので、こちら先ほど瀬ノ上のほうから話が合ったように各校でその辺はいろいろと使う食材等もございますし、旬の食材とかあるので、その辺をいろいろ使いながら1年間を通してその辺の改善、100%に近づけるように努力していきたいと思っております。

○委員（平吹俊雄君）　ありがとうございます。

もう1つお願いしたいんですが、この充足率は小学校はほぼ100%に近い状況というようなことで、改善されているのかなと思います。中学校についてはやはり100に満たない、いろいろなところになっていないということでありまして、特にカルシウムですね。要するに牛乳とかチーズとか小魚とか大豆とか、そういうのがあると思うんですが、その辺が低い理由というのを、最後ですのでよろしくお願いします。

○南郷小学校栄養教諭（齋藤由美子君）　今質問ありました中学校のカルシウムについてですが、カルシウムについては毎日200ccついている牛乳からの摂取が多いです。ただ、小学校も200cc、中学校も200ccです。ですが、基準量は中学校は小学校の1.3倍です。ですので、その分をほかのおかずとかデザートとかさっき言われたチーズとかヨーグルトとか、そういったものでさらにプラスしていかなければいけないんですが、徐々に令和2年・令和3年度少しずつでも取れるように努力しております。特に今年度給食費が値上がりしたということで、より充実してつけられるようにはなってきておりますが、まだ検討が必要ということと、あとカルシウムを増やすために乳製品を増やすことによって、ほかの栄養がちょっと増えすぎるという心配とかもありまして、全体のバランスを取りながら、あと食べられる量というのにも検討しながらやっております。

○委員長（福田淑子君）　藤田委員。

○委員（藤田洋一君）　この中のエネルギーからナトリウムですか、12あるんですけども、マグネシウム一つ取ってみまして、平成29年度から令和2年度、そして令和3年と、こういう2年の時点で13.8%、令和3年度が148.10、令和2年度は48.0とかなり差があるんですが、これは内容的にはどういうふうになっているのか。数値上がっているんですが、その中身が私はよく分かりませんで、分かる範囲でいいですので教えていただければと思います。

○南郷小学校栄養教諭（齋藤由美子君）　マグネシウムについてですが、まだ栄養の基準エネルギーとかタンパク質・脂肪などと比べて、後から最近になって基準量に取り込まれたものですので、私たちも重視する順番としてはちょっと後回しになっているという部分があります。今

回ちょっといろいろ調べまして、実は基準量のうちの牛乳とあと毎日食べる御飯だけで基準の7割ぐらいを占めてしまいます。そのほかに特にマグネシウムが多い豆腐・大豆製品など、そういったものを味噌汁に入れたり、あと豆腐をいっぱい使うマーボー豆腐のような献立にしたりすると、すぐに100%どころか130%・150%になる日も出てきます。ですので、平均してこのような数値になっております。特別食事とか食べるものから取る分に、マグネシウムは多少取り過ぎても特に問題はないというようなことも書いてありましたので、今のところはこの形でどちらかというとはかの不足しがちなカルシウムとかタンパク質とか、そちらのほうを優先にまずしていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（福田淑子君） 藤田委員。

○委員（藤田洋一君） ありがとうございます。

そうすると、文科省で出している学校給食摂取基準の中でなかったものですからあえて聞いたんですが、それはこの部分が高くなっても、豆腐とか例えばそういうもので取っても大丈夫だという判断というか、全体の中でいいということでの今の説明かなと思うんですが、それでよろしいんですね。

○委員長（福田淑子君） 吉田委員。

○委員（吉田二郎君） すみません、ちょっと3点ですけれども。

一番最初にこの表の数値、これ先ほど始まる前に基準値のやつをいただいて、それで年齢別というか4段階かな、中学校を入れると。だけれども、これは全部それを含めて平均を出して、これに出したデータになっているのか。

○教育総務課技師（金須優佳君） 今の質問にお答えいたします。

基準につきましては、平成30年と令和3年に改定になりまして、その年の基準値を基準としてその基準値に対して平均を出しております。年齢別につきましては、基準の年齢がありますので、その年齢の基準値に対して充足率を出すという形になっております。

○委員（吉田二郎君） すみません、文科省から例えばエネルギーだったら例えば「700にしないで」とか「710にしないで」とかってあてがわれた数字で計算というか、それでデータを出してと捉えてよろしいですか。

○教育総務課技師（金須優佳君） 文部科学省の「学校食事摂取基準」を基準としてやっております。

○委員（吉田二郎君） ありがとうございます。

あと、それじゃあタンパク質からナトリウムまで月平均100%に満たないものがありましたんですけれども、これ材料費が例えばなかなか大変で、そろえるのが十分じゃなくて充足率ができなかったのかなと自分なりに解釈したんですけれども、令和3年度になってからは材料費が値上げになりましたよね。それにも増して、こういうふうに数字的にデータが100%を超えないというのは、どういうことなのか。

○北浦小学校栄養教諭（垣崎友紀君） 今のは、栄養価が100%に満たない栄養価については、何か食材の価格の高騰とか関係あるのかどうかというお話でよろしかったでしょうか。

やはり、昨年度からのコロナの関係、あと近年ですととても多い災害ですか、天変地異とかそういったところでも食材の流通にはかなり影響が出ております。なので、それに伴ってなかなか野菜が多く取れるビタミンや食物繊維が価格が高くなった、流通が高くなったという影響でちょっと取りにくいかなとか、そういったところは影響がないとは言い切れないかなと思います。

○委員（吉田二郎君） すみません、小学校のは大変すばらしく改善というか、100%を超えるようなものがほとんどだったんです。中学校の場合は、内容分かりました。

あともう1つ、南郷給食センターで小学校・中学校の給食をお作りしているんですよね。ですけれども、小学校よりも中学校のほうが数字的に見るとバランス悪いというか低いものですか、中学校は中学校で別にお作りされているのか。ちょっと内容というか。

○南郷小学校栄養教諭（齋藤由美子君） では、今の質問にお答えします。

南郷給食センターでは、幼稚園・小学校・中学校基本的には同じ献立です。それを先ほどの基準に基づいて割合を計算して配食しております。主食とか主菜・副菜・汁物についてもその年齢別とかにしているんですが、先ほどもちょっとお話ししたとおりおかずとかについては大体小学校3・4年生の1.3倍という形で中学校は計算をして出しているんですが、栄養価が全て1.3倍ではないので、その足りない分をほかにデザートとか別なもので補ったりはしております。ただし、同じメニューで一緒に、別々に作るのではなくて同じ釜でおつゆならおつゆ1つで一度に作るということもありまして、小学校分と中学校分の栄養の部分とか、材料で調整することがちょっとできないので、できる範囲で別につけたりとかという形で調整をしております。

○委員（吉田二郎君） すみません、例えば令和3年度のタンパク質をちょっと例にとると、8月で小学校が93.9という数値で、中学校になると89.4という数値が出てきている。逆に中学校のほうが量多いから、私なりに多い数字が出るんでないかなと思うんだけど、そういうふ

うな中身ってどういうふうに取ればよろしいのでしょうか。

○南郷小学校栄養教諭（齋藤由美子君） 1.3倍にできている御飯とかあと副菜、汁物はあるんですけれども、まず牛乳が同じ量であるというのと、それからおかずについても必ずしも栄養価どおりにぴったり全てのものを増やすという形にできかねる部分がありまして、その辺でちょっと不足しがちになってしまうところがあります。

○委員（吉田二郎君） その量じゃなくて、メニューがもう小学校のと中学校のと、何ぽか違って来るんですか。

○南郷小学校栄養教諭（齋藤由美子君） 全く同じでただデザートとか、まず量を1.3倍にしているのと、それだけで足りない部分を何かデザートとかを中学校だけつけるとか、そういった形で補っていてもこれぐらいの差がどうしてもまだ出てしまうところです。エネルギーとかについてはほぼ近いんですが、全てにおいて同じようにもともとの基準の割合も違ったりすることもありますし、ぴったりいかない部分があって中学校のほうがちょっと不足しがちになって、まだそこは改善する部分だと思っております。

○委員（吉田二郎君） ありがとうございます。

○委員長（福田淑子君） 手島委員、出席です。

我妻委員。

○委員（我妻 薫君） どうも御苦労さまです。

ちょっと確認したいんですが、さっき言われましたけれども小学校の分ね、中学校は年齢的には1つの層で計算できるんでしょうけれども、小学校の場合は3段階ぐらい。するとこの平均というのは、その3つに分かれているそれぞれの充足率を平均した数字ということでしょうか。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 小学校のほうは真ん中の8歳から9歳、中学年、3・4年生の値を取って計算しております。

○委員（我妻 薫君） 分かりました。

あと、特にマグネシウムで随分小学校と中学校違うなと思って、これ中学校の場合はやっぱり年齢で基準がかなり高くなっている、それに対しての充足率だから少し低めに出ているということも考えられるということですか。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 栄養価の基準値につきましては、小学校と中学校の比率でいきますと2.4倍増えているので、マグネシウムの基準値が中学校のほうが多いので、数値としては低く出るという形になります。

○委員（我妻 薫君） ですから、基準値のほうが高いわけね。それに充足率だから、小学校・中学校同じような食材で増やしたとしても、この充足率からいくと小学校から見たら充足率は低く出てしまっているということでもいいんですね。

あと1つ、さっき吉田さんから出たんだけど、さっきの給食費の値上げの関係で小学校は大体100%に近い数字で、努力されているなど。中学校全体は、さっき出た同じなんだけど、ずっとそれなりに上がっているようだけれども、この充足率をカバーするのに小学校・中学校のこの差ね。給食費の値上げなんかも影響しているのか、関係しているのかどうか。その辺、どう考えているんですか。中学校をもっと上げるべきだったと思っているのか。

○課長補佐兼南郷学校給食センター長兼学校給食係長（三浦徳夫君） では、お答えさせていただきます。

先ほちょっと説明もあったんですけど、学校給食摂取基準がまず改正になっていることによって、令和2年度と3年度では充足率が、令和2年度の基準で計算すると例えば食物繊維とか鉄に関してはもっと充足率が上がっている状況なんですけど、それによって変わっていることによって少しその辺摂取はしているんですけど、低くこのように値は出てしまっているところですよ。

そのほかにも強化食品というものが、例えば鉄とかそういった栄養量を強化する食品を、金額を改定したことによって使えるようにはなっているんですけど、やっぱりその辺子供たちに強化食品に頼らずにいいものを、そして今まで例えば冷凍のものだったものを生ものが使えるようになったとか、そういうように食材の質を上げたりはしているんですけど、ただ栄養基準のほうที่實際はこのようにちょっと低めに出てしまっているところがございますので、先ほちょっと私も言いましたけれども、栄養士会でこの辺は中学校の栄養士には情報伝達をしてこういうふうに質を上げて努力、例えばデザートを増やすとかそういったことはしているんですけど、栄養のほうも上げるように促していきたいとは思っております。

○委員（我妻 薫君） その基準が高くなっていることによるということの影響は理解しましたが、聞きたかったのは小学校は大体100前後までいっているなど。中学校は比較的低い充足率というか、小学校から見たらちょっと今度の値上げの影響との関係で、同じ額上げたわけじゃないわけですよ。それなりに小学校・中学校分けて値上げしているわけで、小学校は大体こうなってきたけれども、中学校はやっぱり上げ幅足りなかった状況もあるのかなって。小学校も中学校も、基準は毎年変わるわけでしょう、いや3年に1回かな。小学校も変わっているわけでしょう。中学校だけ変わったの、違うんですよ、小学校も変わっているんでしょ

う。その小学校・中学校の充足率の改善率の違いをどう見ているんですかって。

○課長補佐兼南郷学校給食センター長兼学校給食係長(三浦徳夫君) 先ほど摂取基準のほうで、小学校のほうなんですけれども低学年・中学年・高学年とあって、その中学年の数値の基準を使っていると説明させていただきましたけれども、その中学年の部分につきましては改正がなかったんですね。失礼しました、中学年のビタミンCだけがちょっと改定になっておりまして、中学校に関しましては鉄とあと食物繊維ですかね、その辺が改訂になっているところではあるんですけれども。ちょっとすみません、中学年はビタミンCと食物繊維、それで中学校が鉄とビタミンCと食物繊維が改定になっているんですけれども、どうしてもちょっと低めに出てしまっている鉄とか食物繊維ですね、こちらにつきましてはやっぱり金額の上げ幅が足りないというわけではなくて、やはりそういうように栄養の摂取のためにはそういった少ない食材を使ったり、先ほどちょっと言った機能強化食品等を利用しながら、基準に近づけるようにはしていきたいと思うんですが。

例えば、上げてそこでいっぱい作っても、やっぱり今度エネルギーとか脂質がオーバーしてしまうとかあるので、その辺の兼ね合いもございますので、その加減を見ながらやっていきたいとは思っております。

○委員長(福田淑子君) じゃあ、議長。

○議長(大橋昭太郎君) 栄養基準の関係の改定の中で、例えば中学校のエネルギーが20キロカロリーに変わってきたものですから、そういったようなことの中で実際摂取量は増えているが、充足率としては思うように伸びていないという意味合いはよく分かったところなんですけれども。例えばエネルギーの850キロカロリーというのは、これは中央値と考えていいわけですね。文科省が出している栄養基準の中央値というふうに考えてよろしいでしょうか。

別な文科省で出している資料には、例えばエネルギーには大体幅があるわけですね。幅がある数値で出している表があるんですね。幅がある資料も出ているわけなんですね。何でそれを聞くかという、実は宮城県の子供たちの体格が例えば全国平均より上背が高くて、体重というんですか肥満傾向にあるというふうに数値として最近出されましたよね。そうすると、この基準値だけを追っていくと、俺は中央値だと思っているんだけれども、そうすると幅があるのに例えばそういったような肥満傾向にある、給食だけでそうになっていくんではないと思いますけれども、そういったような配慮が、逆にこの充足率だけを追っていったことによる危険性というのが出てこないんだろかなというふうにちょっと心配になったところもあるものから、その辺の考え方といたらいいでしょうか。その辺は、どうでしょうか。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 文科省の基準値のエネルギーという部分に関しましては、幅があるものではなくて目標値として1つの数字が上げられているかと思います。ただ、厚生労働省で出しています「日本人の食事摂取基準」というものには、活動量に応じて3段階のものが出ているかと思います。エネルギーの算出というのは、エネルギーとなるものがタンパク質・脂質・炭水化物の数字に係数をかけてエネルギーを出すので、エネルギーという栄養価があるわけではないので、タンパク質・脂質・炭水化物の目標量は、そちらもパーセントで何%から何%までが目標量という幅があるんですが、学校給食で現在美里町で使っている基準としましては、各年代別1つの基準値で現在やっております。

○議長（大橋昭太郎君） 例えばエネルギーには幅があるんですよね。中央値っていうことがあったときの記載というのは、これとは違うんですか。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） ただいま見せていただいたものは、5年ごとに出される厚生労働省の「食事摂取基準」というものに合わせて、国のほうで学校給食摂取基準の策定について調査したものの中央値というものが、抽出した地域の児童・生徒に実際に聞き取りによる食事量を調査しまして、そこから給食としてどれぐらい摂取したほうがいいか期待される栄養値ということで幅がある数字になっていますね。

○議長（大橋昭太郎君） 例えば聞き取りがそうであっても、基準値というのをきちっと出したことによって、例えば考え方でさっき言ったように宮城県の子供たちが肥満傾向にある、そういったような部分の配慮というのは私というのは幅がある、基準値は基準値として幅があるんだから、その辺を配慮していく必要があるのかなという意味合いの中で、極端に言うとも聞き取りすると1,000まであるわけですね、700台から。そういったようなことの部分というのが、この基準値だけを追っていくことの危険性ってないだろうかという思いがあったものですから。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 文科省の基準値でも言っていることは、「各地域に応じてこの基準値を弾力的に運営していい」というふうに言っておりますので、あまりにも肥満児が多い場合は調査しまして、基準値を低くしてもよいことにはなっております。

○議長（大橋昭太郎君） その肥満の部分が、全体の部分からエネルギーだけを出して言うこともまた問題だとは思いますが、そういう意味での充足率の考え方というのが、ここだけを追い求めていくのは大変危険でないかなというふうな思いがあったものですからね。なおさら、3年に1回の改定でどんどん変わっていく。どんどん変わっていくかどうか分からないけれども、そのことによってこの充足率だけを追っていったら、「さっぱり数字が伸びていないんでないか」という批判も出てきてしまう。そういったようなところ、摂取量は多くなってい

るのに充足率は伸びないといったような、大変先生たちにすれば歯がゆいところなのかなという思いもあるし、さっき言ったように子供たちの体格・体型なんかへの配慮も当然必要なんだろうと思うんで、その辺栄養士さんたちに求めることが果たしていいのかどうかも分からないですけれども、大変にその辺の考え方がもしおありでしたら、先ほどの柔軟な対応ということになれば、例えば「美里町では肥満傾向にあるから、エネルギーをもっと下げる」とかというようなことになると、この充足率がぐんと変わってきてしまうのかなという思いがあるものですから、その辺はいかがでしょうか。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 今お話ししていただいた件について、私たちもとてもこの栄養価、充足率ばかりに縛られる自分たちはどうなのだろうという思いを日々持ちながら職務に徹しております。その中で、やはり宮城県特に美里町、肥満児傾向が強い傾向にありますので、そういった面はもちろんこの基準の栄養価をできるだけ充足率を上げていこうと頑張るのが1つ。あともう1つは、やはり学校内で肥満指導などといった体制ができていますので養護教諭や、あと中学校だったら体育とか多分そういった専門の先生方もいらっしゃいますので、そういった先生方と連携を図って栄養士も肥満指導のほうには入っております。

なのでもちろん栄養価をきちんとする、あとそういった指導ですか、学校ごとに指導をするといったところで補足しているところではあります。

○委員長（福田淑子君） じゃあ、休憩いたします。再開は3時5分。

午後2時52分 休憩

午後3時02分 再開

○委員長（福田淑子君） 再開いたします。

委員全員出席ですので、委員会は成立いたしております。

続いて、皆さんから質問をいただきたいと思います。ありましたらお願いいたします。手島委員。

○委員（手島牧世君） すみません、いろいろと重複していたら申し訳ありません。4つぐらいお聞きしたいと思います。

まず、栄養価充足率を上げるために使用する食材の変化等はあったのか、まずお聞きしたいと思います。（「手島さん、値上げによる」の声あり）例えば、今まで栄養価分かっていたけれども、高くて買えなかったものが買えるようになったとかいうところを、ちょっと期待したんですが。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君）　ただいま手島先生がおっしゃられたとおり、国産のものをもっと地域を絞って県内産や地場産、町内産のものを使えるようになったり、行事食として出しているものにお金をかけられるようになったり、それから栄養価の面では先ほどマグネシウムが上がっているんじゃないかというふうなお話もあったんですが、食物繊維や鉄分が多く取れる食材を活用しているので、大豆とか海藻類とか小魚類とか、そのようなカルシウムや鉄や食物繊維が多くとれるものを多く使っております。それには、マグネシウムも多く含まれておりますので、そちらもちょっと増えているような傾向になっております。

○委員（手島牧世君）　ありがとうございます。

今のに関連しながら2つ目なんですけれども、野菜や果物そのものの栄養価が、例えばトマトならトマトのリコピンとかというのが下がっている傾向にある報告なんかもあるんですけれども、例えば露地ものだったりハウスものとか製造の過程でその食品の栄養価って変わってくるかと思うんですが、先ほど言われた地元産の採り入れなどによって、そちらのほうの栄養価というのはやはり一般の基準のものでやっていくのか、それとも新たに地元産だと一度測定か何かとか、栄養価が高いよとか。例えばそういったビタミンとかリコピンとか、そういったものが出てきているのか。そういった変化というかがあれば、教えていただければと思います。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君）　食品成分表は、1つの成分表で使っております。そこには、ハウレンソウの夏取り・冬取りのような基準値の違いは載っているものの、地域の違いは載っておりませんので、野菜に関しては一般的な栄養成分表を使っております。ただ、大きな企業さんのほうで開発された地場産の食材などは、その都度成分の分析をしているものの、栄養成分表というものが提出されますので、そちらの基準値を打ち込んでそれを活用しております。

○委員長（福田淑子君）　手島委員。

○委員（手島牧世君）　ありがとうございます。

では3つ目として、今までお話しされたような形なんですけれども、例えば県内産だったり町内産だったりとか、そういった行事食とかも変化あるということだったんですが、そういった内容について家庭へのお知らせと充足率を含め変化についてこういった形でお知らせとかを行っているのか。もしくは、毎月の給食だよりの中で何か行っているのか、お聞きしたいと思います。

○北浦小学校栄養教諭（垣崎友紀君）　今の質問にお答えします。

栄養価については、月ごとに出しております予定献立表の中で保護者の方にお知らせできる

ような、そのような形に町内統一でしております。行事食についても、今お話ししたような予定献立表だったり給食だより等で、「この日こんな献立出るよ」「楽しみにしててね」なんていったお便りを作成しているところであります。

○委員長（福田淑子君） 手島委員。

○委員（手島牧世君） ありがとうございます。

最後です。子供たちは、給食ってすごく楽しみにしているところかなと思うんですね。なので、楽しみにしているとか喜ぶようなものって、必ずしも栄養価がいいとかバランスがいいとは限らないんですけれども、やはり何か子供たちが「こういったものが欲しい」とかというところの楽しみというんですか、そういったものをうまく取り入れることができるのかどうか。もしくは、そういったところで気をつけている点とかがあるのか、教えていただければと思います。

○南郷小学校栄養教諭（齋藤由美子君） では、お答えします。

子供たちが楽しみしている人気メニューとかデザート、そういったものを「リクエスト献立」のような形で募集をしたりアンケートを取ったりして、年に何回かですけれども取り入れています。同じ献立を出すにしても、やはり栄養士が一方的に「このメニュー出しますよ」という献立表をお示しするだけではなくて、やはり子供たちに聞いてとか、意見を取り入れることによって同じものでも全然捉え方が違いますので。

あと、南郷小学校とかでは1週間いろいろな目標をつくって、「頑張ったらデザートをリクエストできるよ」みたいなことを設けて、そのリクエストに基づいて「このデザート出しましたよ」というとすごく喜びとか、同じものでもすごい前々から期待をして楽しみにしていたりするんで、そういったいろいろなやり方で先生方とか給食委員とかの協力も得ながら取り組んでおります。

以上です。

○委員（手島牧世君） ありがとうございます。以上です。

○委員長（福田淑子君） 柳田委員。

○副委員長（柳田政喜君） すみません、大変御苦労さまでございます。

今手島さんにもちょっと聞かれてしまったんですけれども、値上げした効果というのが随分出ているみたいで、すごい安心したところでございます。ちょうど課長さんもいなくなったので、ざっくばらんに話せると思うんですけれども、値上げ効果でほかに「こういうことがあった」という話、もしよかったらありましたらお聞かせ願えますか。すみません、議員としても

やっぱりこの値上げに関しまして、やはり賛否両論があったわけなんですね。当然値上げすると父兄の負担になりますと。

それで、どうしても栄養価の部分を勉強していくと、前にお聞きしたときに「例えば値上げしてもらえば、ナッツを使える」とかというお話もいただいて、「そういうのは高いんです」という話もあったものですから、値上げするのとぜひとも必要なんだけど、親御さんの負担を考えると反対せざるを得ないと、みんな悩んだと思うんですよ。その中で、町長さんのほうから「その辺も考える」ということで、今回値上げに賛成した議員もいるんですね。そういった中でやっぱり値上げた部分でどのような効果が、いろいろ使えるものが増えたとか、あと先ほど国産のものが使えようになったとか、冷凍から生になったとか、いろいろお聞きしましたがけれども、ほかにも何か「こういう部分ありましたよ」というアピールありましたら、お願いします。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 先ほど楽しみの部分というお話もありましたが、どうしても栄養価に偏ってしまうとデザートの方で金額を調整するというのがこれまでありましたので、金額が改定になってからデザートの回数を本校でも増やすことができるようになっています。毎月平均で、上昇しているところです。

それから、タンパク質を取るために鶏肉とかということでやってきたのが、豚肉を使えるようになったということが出ています。あとは、汁に使えるだしの選択肢も増えた。それから、新しいメニューを出すことができるようになった。あとは、児童生徒の要望を取り入れやすくなったという声が上がっています。

あとは給食費は今まで端数があったので、保護者のほうからも「金額がそろえられてよかった」という声は聞いております。

○副委員長（柳田政喜君） ありがとうございます。随分いいことが増えたのかなということで、安心しているところでございます。

それにつながりましてお聞きしたいんですけども、この栄養価はやはり希望量を食べてもらえれば栄養価は満たされていくのかなと思う部分でございます。食べ過ぎて私みたいな方もおりますけれども。実際、ちょっと前のデータしか今私たち持っていないんですけども、残菜量というのは結構多いところというふうに聞いております。特に中学校になりますと、結構100グラム単位で残したりという。特に南郷のほうですかね、まだこれは令和元年度の決算しか出ていないんで、令和2年度以降はちょっとデータの的に持っていないんですけども、南郷のほうがちょっと残菜が多く、あと小牛田中学校・小学校とかで50グラム台ということで、結構

あるのかなというふうに思っております。残菜と栄養価の充足率、その辺のところのバランスをどのように捉えているのかお聞きしたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○南郷小学校栄養教諭（齋藤由美子君） では、お答えします。

先ほど出た南郷のほうが残食が多いというのは、確実ではないんですけれども残食の計測の仕方がちょっと統一していなかった部分もあって、残ってきた味噌汁とか汁物とか牛乳も含めて計っている学校と、南郷はそうなんですけれども、しっかり汁を切って中身だけで計っていた学校というところがちょっとあって、統一していたはずなのがちょっと統一していなかったという部分がありました。

ただ、令和元年度から令和2年度、コロナでしばらく休校になって、6月から学校が始まって給食が始まった時点では、やはり黙って食べる、黙食ですね。今までみたいにグループを作って楽しくおしゃべりをしながら食べるのではなくて、全員前を向いて黙って食べるということで、やはり食べることに集中、その時間きちっとしないといけないということもあって、残食の量は結構減りました。現在、それを維持しているというような形にはなっていますが、そういう意味できちっと食べることに集中させられるし、先生方もきちっとそういうコロナ対応も含めた給食指導をきちっとしている。マスクを外して食べるということで、より気を遣っていただいているので、それを含めてきちっと食べるということをより御指導いただいているという効果もありまして、現在はそのような形になっております。

以上です。

○委員長（福田淑子君） 柳田委員。

○副委員長（柳田政喜君） ちょっと安心したところございまして、みんな子供たちもおいしく食べるようになってきている部分と、測定量の違いで前のデータはちょっと当てにならないという部分あるということですね。

じゃあ、次お願いします。

○委員長（福田淑子君） 村松委員。

○委員（村松秀雄君） 私は今みんな言ったんで、数値的にはやはりちょっと全体的に見ただけでは中学校のほうが充足率として下がっていると。確かに90%以上もあるんだけれども、80%も2つとかあるんで、この辺はさっき言ったように充足率だけじゃないんで、やはり子供さんたちに食べていただくということが大事なかなというふうに思っています。給食というのは、1日3食とすれば3食の中の1食というふうに皆さん捉えられて、それにプラス学校給食の場合は栄養価という問題も出てくるかと思いますので、特に家庭で取れないと指針にも載っていま

したけれどもカルシウム・鉄・食物繊維ね、これがなかなか今家庭で取れていないんじゃないかと。学校給食のほうでも、この辺を重点的に摂取・供与するというような形で出ていますけれども。まだまだその辺が、数字だけ見れば足りないのかなという感じはしますけれども、頑張ってくださいというふうに思っております。

あと余談なんですけれども、先日農協さんとの「夏黄金（なつこがね）」、小麦粉ね。皆さん御存じだと思うんですけれども、今週1回ですよ、パン給食。ですから、多分来年かなというふうに思うんですけれども、その辺はいつ学校給食に取り入れなさいと（「9月16日」の声あり）、9月から。ああ、もうすぐ。じゃあ、皆さんもうそれで栄養価とか何とか、パンに関する分析は終わっているわけですね。

○議長（大橋昭太郎君） 福田委員長が議会の中で取り上げて、それで地元産小麦で子供たちにパンを提供しようというところから始まったことですので、御認識いただきたい。

○委員（村松秀雄君） じゃあ、いいです。御存じだということで、今後週1回くらいね、ちょっと町も力入れているようでございますので、2回になるか増えるか分かりませんが、週1回は今までどおりということで。1回以上という予定なようでございますね。その辺も、ちょっと献立のほうに入れられるというふうに思っております。

あともう1つなんですけれども、行事食、いろいろ節目節目あると思うんですけれども、ちょっとその辺だけお聞かせいただけますか。

○北浦小学校栄養教諭（垣崎友紀君） 例えば七夕のときに七夕給食を出すとか、あと今度お月見があればお月見給食を出すとか、そういったことでよろしかったですか。

○委員（村松秀雄君） それで、給食の献立は違う部分。

○北浦小学校栄養教諭（垣崎友紀君） そうですね、今七夕をやりました。あと、夏休み前だとオリンピックもありましたので、北浦小学校ではオリンピック応援メニューみたいなこともやりました。あと夏休みが明けて、今お話ししたようにお月見があります、ハロウィンがありますクリスマスがあります、そういった献立は各校でも行事食として扱うところかなと思います。

○委員（村松秀雄君） ありがとうございます。以上です。

○委員長（福田淑子君） ほかに委員からありませんか。

じゃあ、なければ私のほうから。学校給食を値上げして、充足率はかなり解消されたんですけれども、それでもまだ充足していない部分についての今後の対策ですね。どのようにしていくというふうに捉えているのか、考えをお聞かせいただければと思います。

○課長補佐兼南郷学校給食センター長兼学校給食係長（三浦徳夫君） では、私のほうから説明

させていただきます。

まず、栄養教諭等の努力によってかなり改善はしてきたところでございますけれども、今御指摘あったように確かに中学校とか不足しているところもございますし、小学校においても全て90%は超えているんですけれども、さらにもっと改善できるものは改善できるように、これから栄養士会等でこの辺まず情報共有して、献立等でどのようにしたらこの部分を上げられるか。例えばエネルギー量とかも、例えばここを上げることによってエネルギーが増えてしまって、先ほど言ったように肥満が増えてしまうとか、そういうこととかいろいろな状況とかもありますので、その辺を栄養士等といろいろ協議をしながら、今令和3年の8月までということとで計算しておりますけれども、令和3年度で1年間を通してその辺をできるだけ改善していきたいとは思っておりますけれども。

改訂してまだ1年目ということもありますし、コロナ等の影響等も今後もしかしたら出てくる可能性もあるので、思うようにいかないかもしれませんが、そういった努力はしていきたいと思っております。

○委員長（福田淑子君） それから、平成31年の1月18日も同じように意見交換会させていただいたときに、ぜひ学校の栄養士の方々が情報交換しながら研修会もしていってほしいという話をさせていただいたんですけれども、その研修会はどのようにこれまで行われてきたのかお伺いします。

○課長補佐兼南郷学校給食センター長兼学校給食係長（三浦徳夫君） 栄養士の研修会のことで

すか。
栄養士の研修会につきましては、まず栄養士会というのが不定期なんですけれども、年に6回から7回ぐらい開催されているんですけれども、その栄養士会の中で最初は教育委員会からの事務連絡とか伝達事項を伝えまして、その後に栄養士たちのほうで研修会等をやっているところでございます。

○委員長（福田淑子君） 一番問題だったのは、充足率がなっていないよという話から話が出て、「研修会をもっと強めて、お互いに情報交換して欲しいんです」という話をさせていただいた経緯があったんですね、前。だから、どのように研修会が行われてきたのかなということでお聞きします。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 前回、同じように常任委員会でお話いただきまして、平成31年の2月か3月に栄養教諭・学校栄養士全て集まりまして、まず研修を持たせていただきました。その中でビタミンの摂取の仕方、どのように上げたらいいとか、どういう食

材を使ったらよいかというようなところを詳しく勉強会をさせていただいております。その後も、県の研修会・保健所の研修会等にも積極的に参加いたしまして、栄養価の充足を満たす献立というのもやっております。

それから、昨年度は研修会ができませんでしたので、大崎地区で研修会を持つことになっておりまして、南郷の齋藤のほうがリーダーになって取りまとめをしていたんですが、栄養価を満たす献立のレシピ集というのを大崎地区で、もちろん美里町も中心となってまとめてというものを配付しているところです。

○委員長（福田淑子君）　ありがとうございます。

それで美里町の宮城県産・地場産、県産です、要はね。美里町だけでなくね。県産の地場産を使っているのは、今何%になったでしょうかね。先ほど地場産を使うようになったという話もされたので、何%なのか教えてください。

○不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君）　すみません、今すぐ数字というものはちょっと資料を持ち合わせておりませんので、詳しくお答えできないんですが、美里町の食育推進計画・国の食育推進計画・食育推進プランから落ちてきている数字が今年度からまた変わるんですが、昨年度までの状況ですとその基準値・目標値よりは本校としては上回っている数字を出してはおります。

○委員長（福田淑子君）　これまで美里町、かなり高いパーセンテージだったので、その辺は誇れるかなと思っていたので、今回なおさら多く使っているのかなと思って、その辺もし分かったら後で三浦さん、お知らせいただければと思います。

ほかにありませんか。（「なし」の声あり）ないようですので、今日栄養士さんとのいろいろな意見交換、栄養価の充足率についてお話をさせていただきました。かなりの効果で充足率が満たされてきているのかなという努力、大変ありがとうございますというふうに感謝申し上げます。なおさら、まだ充足していない部分もありますので、それについてはなお一層研修、それから情報交換を行いながら、充足率を高めていただければなと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議は、栄養価の充足率についての会議を終わります。副委員長、挨拶をお願いします。

○副委員長（柳田政喜君）　本日はお忙しいところわざわざ来ていただき、いろいろ珍問もございましたけれども答えていただき、ありがとうございました。今後、本当に値上げに対して私たちもいろいろな考え持っていたところでございますけれども、大分安心いたしました。今後とも、コロナ禍で特に大人数の調理師の方が集まってやる中で大変な給食提供になってくると

思いますので、その辺気をつけながら十二分にやっていっていただきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

○委員長（福田淑子君） 休憩します。再開は3時45分です。

午後3時32分 休憩

午後3時37分 再開

○委員長（福田淑子君） 再開いたします。

大変皆さんお疲れさまでした。

ただいま学校給食の栄養価充足率について、いろいろ意見交換させていただきました。一番心配したのは、充足率が値上げによってどのように変化したのかというのが一番気になったんですけれども、栄養士さん方の努力によってあと値上げということもあって、充足率が随分解消されたなという感じは受けました。

それで、常任委員会として今後これについてどのように取り扱っていったらいいのか、皆さんに御相談したいと思います。

休憩します。

午後3時38分 休憩

午後3時44分 再開

○委員長（福田淑子君） 再開いたします。

本日の常任委員会の会議は、学校給食の栄養価の充足率をお聞きして、栄養士さんと意見交換会をして充足率について確認したということで、これにとどめておきたいと思います。

これで今日の会議を終わります。大変お疲れさまでした。

午後3時44分 閉会

令和3年8月24日

教育、民生常任委員会

委員長